

協調の原理と日本語の「言い換え」表現について — ラジオのトーク番組から —

伊 東 美智留

【要 旨】

Grice (1975) の協調の原理は人間の発話が行われる際、話し手が自然に相手を意識し、なされた発話が理解されやすいように、発話を展開していく原理を示したものだが、特に、日本語の「言い換え」の表現に着目し、実際にどのような形態を取り、展開されていくのかについて考察した。

【キーワード】 言い換え、協調の原理、トーク番組

1. はじめに

人が自然な発話をする時、さまざまな発話行為を行っている。自然な言語活動には、話し手も聞き手も無意識のうちに、あるいは、意識的にお互いの発話行為がより理解されるように、発話を行っているといえよう。実際にはどうなのか自然発話のコーパスを分析し、その点を考察していきたい。

2. 本研究の目的

人間の自然な発話行為には、話し手になった時、無意識におこなっている不可避の行動がある。その自然な言語活動の中で、Grice の協調の原理を喚起する言語行動がある。非常に興味深かったのは、かつて自然会

話の中のポーズの研究をした際に、話し手は無意識により分かりやすく話そうとする姿勢を見せるということであった。瞬間的に行われる発話の意味内容には、前置き表現や、返答要求、注目表示などの機能を示し発話されているが、その発話の中で、「言い換え」、「言い直し」は、明らかに話し手が聞き手に対して、明示的に行う「協調の原理」に基づいて行われている行為といっても良いのではないかということである。

3. 本研究のために作成したコーパス

本研究に使用したコーパスはラジオのトーク番組や通常の放送の中で繰り返されるトーク部分を録音し使用した。録音時間は約50時間、2010年8月～10月に放送されたNHKのラジオ番組の中から、特にトークを主体とした番組および、通常の放送のトーク部分を録音し、それを文字化したものである。本研究の対象となる「言い換え」また、「言い直し」の部分を取り上げ分析を試みた。

4. 協調の原理

4.1 協調の原理

Grice (1975) は、会話者は協調しながら会話に貢献すべきものであるという基本原理を作り、その原理のもとに、会話の状況に応じて、「量の公理 (maxim of quantity)」（会話の遂行に過不足のない量の情報を与えよ）、「質の公理 (maxim of quality)」（根拠のある真実を話せ）、「関連 (関係) 性の公理 (maxim of relevance)」（自分の発話を関連性のあるものにせよ）、「様態の公理 (maxim of manner)」（順序立てて明確に話せ）の4つの公理を掲げた。

4.2 「言い換え」を生じさせる要因

「言い換え」は、既述の「協調の原理」の違反を免れるために、話し手が行う発話行為である。一度口から出た発話を、より完全なものへ仕立てあげるために話し手は、聞き手に対して、理解されやすいように、最適な発話へと言い換える行為であると言えよう。「言い換え」の要因として考えられるものは、談話の文脈により、いくつかの種類に分かれ、いづれにしても、協調的なやりとりのために、「量の公理」や「質の公理」などの公理を順守することを意識し、話し手は「言い換え」という発話行為を行っているといえることができる。

5. 分析と結果

5.1 「意識的言い換え」と「文脈即応の言い換え」

「言い換え」に関して分析を行うと、「言い換え」が大きく二つに分けられ、話し手自身が意識的に、自身の発話内だけで「言い換え」を行う場合と、聞き手との談話の中で、その話の流れの中で行う「言い換え」の二種に大別できるのではないかと考えた。前者を「意識的言い換え」、後者を「文脈即応の言い換え」と名付けることにした。

5.1.1. 意識的言い換え

「意識的言い換え」というのは、話し手が主体的に、また、意識的に言い換えを行っているといった言い換えである。トーク番組の中で、談話の流れを追って行くと、意識的に話し手が話の内容を聴取者に対して、分かりやすくするために、ほとんど一人で語っているような場合やターン交替があまりなく、中心的に話をしている人が語っている場合などである。その「言い換え」は、主体的に、意識的に行っているものである。「トーク1」はショパンについて、あるピアニストが語っている件である

が、03の「ダイヤモンドのような」は、04で「非常に硬い」と言い換え、また、同じ04の「非常に硬い」をさらに「硬度が高い」と言い換え、さらに、04～05で「硬く」、「これ以上なくないほど純度が高く」と表現しているが、感極まって「これ以上なくないほど」と言い間違えている。正しくは「これ以上ないほど」である。また、純度の高さについては、04の「その要らないものは、一切なくて」を、05の「純度が高く」に言い換えている。03～05にかけて、硬さ、純度の高さに関して、綾をなすように幾重にも言い換えを行っている。

[トーク1]

(太子：対象箇所、元の部分：___、言い換え後：___)

01	K:	ですから、そのショハンの自身の核みたいの部分ていうのが、どんな小さな作品にも、
02		せいから、ソナタのような大曲にも表れていて、あのう、まあ私はよくショハンていうのは、
03		<u>ダイヤモンドのような</u> 作曲家だなんて感じるんですが、そのなぜかという、その芯があの
04		<u>う非常に硬い、硬度が高い、そしてその要らないものは、一切なくて、硬く、これ以上なく</u>
05		<u>ないほど純度高く、あのう、こう輝いていて、</u> だけどそれは、こう、 <u>わあへと迫るような輝き</u>
06		<u>じゃなくて、フチッと、パッチッと輝いていて、</u> で、あのう、ひじょうに、だから繊細であるんだ
07		けれども、輝きも強んだけれども、その <u>威圧するような輝きではない、</u> そこには本当に
08		<u>シンプルなんか極まった美み</u> たいなものがあって、でそれ、が、やっぱりだれしもがもう納
09		得して美しいと思ってしまう ですから <u>デコレーションも、</u> そこまで <u>なければ、</u> なにも、
10		<u>そのものずばりが、</u> あのう美しいという作品を生み出しているんだというふうに感じます
11		(吸う息)で、その一方で、例えば、ま、あのう、う～、自然界のもので喩えるなら、なぜか
12		桜のイメージもあるんですね。その～、う、これだけ美しいのに、こう、ほ、なんかこうためら
13		いもなく、はらはらと散ってしまう感じ、せいから、その、花びらもこつりてこう、なんで花び
14		らに、 <u>こう薄い、</u> う～、膜のような毛がついてるでもなく、 <u>透けるようなピンク色で、透明で、</u>
15		こう、う～美しいけれども、美しいよりちょっとなんかやっぱり、 <u>こうそこに悲しい感じと</u> 言
16		いますが、 <u>潔のいい感じ</u> を感じるっていうんでしょうか。なんかそういう意味で日本人が、
17		あのう、ショパンというもの、作曲家、作品をものすごく愛するというのは、どこかにそいう
18		う、あのう、きつ、心の奥底で、なんか知っているようになっていうか、普段に感じ取っている
19		ような、部分があるのかなあなんていうことを感じてしまったりするんですけど、ですからこ

20	のショパンの、曲を引く時ていうのは、なんか自分のこう中途半端な感じを込めるんだっ
21	たら、ほんとに <u>楽譜に忠実に</u> もうショパンが何を、楽譜の中に込めたかと、ほんとうに
22	<u>楽譜に書かれたことだけ</u> を、あのう、もう、 <u>忠実に見ていって</u> 、自分の心をそこに、
23	あのう、なんていうのかな、同化させた方があのう、いい演奏になる、のこなっていることを
24	考えたりします ですから、ほんとにその、音楽ていうのは、いろんなもう、あのう、その人
25	そのものだとか、感情を出すこともたくさんあるですけども、ショパンていうのは、たくさん
26	作曲家の中で、実は別の位置にいて、なんかこう、いつでもこう、美しい涼やかな目を
27	持って、なんかこう、へえ (笑)、私達の演奏をどこからか、シュッと、ちょっと冷静に眺め
28	てたりすんじゃないかなんて思っています。

そして、次に輝きについても 05 で「こう輝いていて」が、同じ 05 で「わあ〜と迫るような輝きじゃなくて」、また、06 で「プチッとパチッと輝いていて」、さらに 07 で「その威圧するような輝きではない」と輝きに関して、色々な表現を使って言い換えている。さらに、08 で述べている「シンプル」を「極まった」また、09 で「デコレーションも、そこまですれば」とか、10 で「そのものずばり」などという言い方をしている。そして、この作曲家の持つ透明感については、14 で「薄い」、「透けるような」、「透明で」と言い換えをおこなっている。15 で「悲しい感じ」を 16 で「潔い感じ」に。また、21 で「楽譜に忠実に」を 22 で「楽譜に書かれたことだけ」、「忠実に見ていって」と、ピアニストとしてのショパンの曲に対する自身の姿勢を示している。

5. 1. 2. 文脈即応の言い換え

対話の流れの中で、その場に応じ、瞬時に言い換え、他の言葉に置き換えて分かりやすくするといった発話行為である。それは相手の反応に応じて、相手の表情だったり、態度だったりに応えるように言葉を言い換えている場合である。つぎの [トーク 2] は名古屋で開かれた COP10

に関してTがインタビューに答えている場面であるが、06の「バックアップ」という言葉を08で「取っておく」、18で「確保していく」などといった言葉で言い換えを行っている。また、08では「組み合わせる」を「掛け合わせ」といった言葉にも言い直しを行っている。そして、さらにその「バックアップ」が何のバックアップであるのかという、聴取者にも、より具体的な内容が伝えられるように、12の「遺伝資源の確保」であることが確認されている。15でTは、聴取者も日常よく耳にする「保険の意味」という表現を使い、分かりやすく語っている。この言い換えは、「意識的言い換え」に比べ、どちらかというところ、聞き手の反応、応答に応じての言い換えである。

[トーク2]

(太字: 対象箇所、元の部分: ____, 言い換え後: ~~~)

01	A:	そうですね。このいろんな多種多様な生き物がいるということが損なわれていくっていうこと
02		の、怖さと言いますか、これはどんなふうに理解していけばいいですか。
03	T:	ええ、たとえば私達の食卓に大きな影響があります。普段良い作物だそれだけを栽培して
04		いますと、急に何か病気が流行っていた時、その作物がいっせいなくなってしまう危険性
05		があります。あるいは、地球温暖化というものがどんどん進んでいってしまうその作物が、
06		それまで、作っていた場所では熱すぎて作れなくなってしまう。そのような時に <u>バック</u>
07		<u>アップ</u> として、それまで作っていなかったほかの作物ですとか、あるいは似たような親戚の
08		種みたいなものを <u>取っておく</u> ということによって、そういったものと <u>組み合わせ</u> て、 <u>掛け合わ</u>
09		<u>せ</u> によって、環境の変化に対応していくというのができるようになるんです。適にそういった
10		バックアップとどんどんうしなっていくってしてしまうと、わたしたちが普段えている、食べ物ですと
11		か葉とか、 <u>言ったものが手に入らなくなっていくって</u> しまう危険性が増しているんですね
12	A:	うん、つまり、いろんなそうまあ、 <u>遺伝資源</u> ですね、 <u>遺伝資源</u> というものを <u>確保</u> していくって
13		いうのが、なにかに変異が起きた時には、救ってくれる選択肢をいかに救ってくれるか、こうい
14		うことなんですね。
15	T:	<u>保険の意味</u> もありますね。私達が普段まあ漢方薬や薬もあります。ですので <u>保険の意</u>
16		<u>味</u> 、今現在、さまざまな形で食品ですとか、新製品を開発する時の、アイデアの元として、

17	使っているようなものです。そういったものを大事にしていくことが、だいじになります。
18	うん、つまり、いろんなそうまあ、 <u>遺伝資源ですな、遺伝資源というものを確保していくって</u>
19	というのが、なにか変異が起きた時には、救ってくれる

さて、このように「文脈即応の言い換え」の方が、どちらかというところ、多いのだが、発話というのは、ある意味、口という器官を通して、息遣いも調節しながらの発話行為であるという点から、生理現象的な面もあるため、発話しようと思った瞬間が、呼吸の瞬間と重なってしまったために、息継ぎがもとで、言い換えるという場合もある。「言い換え」の形式の部分で取り上げる「追加」は、ほとんどがこの種のものである。

また、話者が思わず言い換えをおこなってしまうというのが、他の表現、つまり、類語を使って、言い換える場合だ。無意識的に「協調の原理」を順守するように、あたかも人間は作られているようにさえ感じさせられる表現である。

5.2 「言い換え」の形式

つぎに、「言い換え」の形式に関して考察を加えると、最初に発話された「元の発話」と「言い換えられた部分」の関係から、いくつかの形が見られる。ここでは、追加訂正、類語を含む別表現、具体化、構文的変更の以上の4種類に分類した。

5.2.1. 追加訂正

「追加訂正」は、一音だけの発話をして、言葉を補うなど、すでに述べたように、息継ぎが伴う場合や、何か単語が思いついて、それに続けて文を構築しながら、話を進めていく中で、言い換えが行われる形式である。比較的よくある形で、単語レベルの言い換えが多い。

例)

- a. いかにかう美しく、さりげなく、そしてき、きれいにやるかという
- b. とうろく、とうろく人数
- c. ささ、ささえのしくみ
- d. 定住、定住化、したがって
- e. 屋上って、屋上ってどういう場所か
- f. もつ、すまっ、もうすさまじい、だから、だろうと思うけど
- g. 人間、一人の人間として、自分をたよるな。そういうふうなんで
- h. 短い間に、比較的短い間に多くの種が滅ぼされてしまったていう過去の恐竜の時代などには
- i. 十分それが十分アピールしきれてない部分はあるかと思ひます。

a. では、元の発話が「き」という一音で、言い換えられて「きれいに」という一語になっている。b～dは、語の一部を述べて、後にきちんとした語を述べるという形になっている。e. は「屋上って」と言いだし、「屋上ってどういう場所か」という文を構築している。f. の「もつ、すまっ、もうすさまじい」は、元の発話部分が「もつ、すまっ」で、言い換えられて「もうすさまじい」というきちんとした言い方へ変わっている。g. ～i. は、元の発話もきちんとした語を発しているが、発話者が、発話の意図を正確に伝えるために、さらに言葉を補い、iは言い換えをおこないアピールすることの重要性を語っている。

5.2.2. 類語を含む別表現

この種の言い換えは、元の語と言い換えられた語が、まったく異なる語であったり、類語であったり、意味が似通った語が来ているような形

式である。a. の「この間でも」を「以前」と言い換え、b. では、同種の「レジデンス」や「ハウジング」という類語を用いて先進各国では、住居を与えないことは異例なことであるということ述べている段だ。c. は屋上や公園のような隙間のような空間の大切さについて語られた話の中で、特殊な空間を隙間という表現で言い換えている。d. で「社会に」を「地域に」という語で言い換えている。この別表現の言い換えでは、「つまり」、「というか」、「あるいは」、「とか」や「いわゆる」などの語が「元の部分」と「言い換えられた部分」の間に入ることがある。

例)

- a. この間でも、以前、ここでもうしあげましたけどもね
- b. 先進各国では、レジデンスというか、ハウジングというように
- c. 特殊な、つまり、隙間だったんですね。で、これって、けっこう大事なこと
- d. 社会に、あるいは、地域にすきまがあるっていうのを、許さなくなっている
- e. おうち、家からでる前から、れんしゅうしてしまって
- f. メイクさん、床山さん
- g. 写真というのはストーリーですね、物語性
- h. 自然を利用するとか、使うという要素も入っているわけですね。
- i. バックアップとして、それまで作っていなかったほかの作物ですとか、あるいは似たような親戚の種みたいなのを取っておくということによって、
- j. その生物多様性が今、危険な状態になっている。会議が開かれるわけですけども、その危機の状況というものです。
- k. 絶滅というものが起きているということがよくいわれます。年間でだいたい4万種ぐらいが滅ぼされているのではないかといわれ

ています。

- l. まず、生物多様性重要性が皆さんにわかっていただけていない。
(中略) われわれがどのような場面であつているのかということが十分に認識していない。
- m. 縁の下の力持ちという形ですね、地道に、貢献はしてきたんですけども
- n. 具体的な取り組みはどうするかということになると、先進国と発展途上国など、各国です、温度差、意見の隔たりとかがですね。
- o. コンピューターには事前に歴代のプロの棋士が残した対戦の記録、いわゆる棋譜を学習させています。
- p. 覚えやすいといいますか、そのメロデーがあうん頭か耳か心かわからないですけど、にのこるんですね その一節がこうとにかくこう (中略) のこつてこう、う、頭の中からはなれなくなるつていう非常にだから印象的なんだけれども自然であるという、そういう不思議な性格をもつてと思う

また、f～g. では、さまざまな類語を用い、言い換えをしながら、聞き手である聴取者と目の前にいるアナウンサーに対して、理解しやすいように語っている。l. は皆さんに「わかっていただけていない」を、われわれが「十分に認識していない」というように構文をかえ、言い換えている。ここの「皆さん」は「われわれ」とほぼ同一の意味であり、私たち人類すべてを意味し、「私たち人類がもっと生物多様性のことを知らなければならない」という主張を行つている。mの「縁の下の力持ちという形」は「地道な貢献」という意味である。nの「温度差」とは、「意見の隔たり」つまり、具体的な取り組みになると、各国間には意見の

微妙な違いがあるということを示している。p. では、曲が「覚えやすい」ということを、「頭か耳か心か（中略）にのこる」、「印象的」と二度言い換えを行ってる。

5.2.3. 具体化

この種の言い換えは、最初に述べた語を、より具体的な語に言い換えて、「量的な公理」を守っている表現と言える。a. の「以前」とは、どれぐらい以前なのかということ、具体的に述べ、聞き手に分かりやすく述べている形式である。b. では、話題の人物がさまざまな土地に居を構えたことを、「いろいろフランスの中」なんだけれども、具体的な場所として「ノアン」という地名を挙げて聞き手に理解されやすいように言い換えを行っている。

例)

- a. ぼくは、以前、っていうのは、20年ぐらい前になるけど
 - b. 小さな町で生まれて、それから、まあ、ワルシャワに来て、それ、そのあとまあ、パリ、いろいろフランスの中とか、いろいろノアンであったり、
 - c. まあ、そういうことで、うん、短い、あの～う、39歳の生涯を終えてしまうわけですけども
 - d. 演出してくれるというか、それを心地よく、ショパンを居心地よく、あの、する環境を作ることのできる優れた能力をもった
 - e. なんか自分は楽でいられる～、状況だけれども、ほんとの、真の楽ではなくて、まあ、美しい姿を保ちながら、楽でいられる状況というのを、う～ん、なんか、こうずっと探していたのかなって
- c. では、「短い」というのが、どれぐらい短いのか、具体的に「39歳」

という年齢をあげ、d. の「心地よく」は、心地よくさせる対象を明確にしている。e. の「楽でいられる状況」が、「美しい姿を保ちながら」の「楽でいられる状況」であることを示している。

5.2.4. 構文の変更

この形式は元の部分から言い換え後の部分を見ると、構文そのものの形も変えられているといった形式である。例えば、b. のように「なる」が「なれば」に変えられたり、また、d. のようにコンピュータの中には、過去の棋譜が既に入られているのだが、「コンピューターが学んだ棋譜にはないもの」という連体修飾句で一旦は発話したものの、まったく構文そのものを変え、より分かりやすく「相手が過去の棋譜にはないような手をさしてきた場合」と言い換えている。e. では、「序盤が」と言い始め、次に「序盤で」というふうに、助詞をかえて、つぎの「どれだけ差をつけられるか」という疑問文の形を言い換え、「ポイントをあげられるか」というふうに、端的に述べている。また、f. では、「痛みみたいなもの」が「同居している」と最初に言い、「ある」は同じような構文をとるが、次に、視点を変えて、「感じられてしまう」というように言い換えられている。

例)

- a. 地域の大きな、多くの
- b. 大人になる、なれば
- c. さまざまな場所を変えていく、変えていくことによって、6回目の絶滅が起きているともいわれています。
- d. へえー、でもコンピューターが学んだ棋譜にはないものは、相手が過去の棋譜にないような手をさしてきた場合は、どうすんでしょう。

- e. 序盤が勝負ですね。やはり、序盤でどれだけ差をつけられるか、もしくは、ポイントあげられるかっていうのが、そのあと大きいと
- f. そこには何か、痛みみたいなものが、常にこう同居しているというか、ある、感じられてしまう。

上記のように構文の変更を伴っての言い換えは、他の言い換えよりも頻度は少ないが、聴取者に対して、意識的に分かりやすい表現を取ろうとしている姿勢が見られる言い換えと言えよう。

6. おわりに

談話中の「言い換え」について考察してきたが、Grice の協調の原理という人間のコミュニケーションが円滑に行われるための原理があり、それに則って、発話が展開されていくということを、日本語の談話を分析することにより明らかにしてきた。日本語の「言い換え」表現の形式を見る限り、非常に豊かに言い換えられ、聞き手のニーズを満たしていると言えるのではないと思われる。かなりの速さで話が進む中で、話し手は縦横無尽に言い換え、言い直しを繰り返し、聞き手に話しかけ、問いかけに応じさまざまな形で、より正確に十分なコミュニケーションを図ろうと努力し発話行為を行っているということが出来る。談話分析については、さらに分析可能な項目があり研究していきたいと思うが、コミュニケーションが取りやすい談話の方法など日本語教育にも応用できる内容が含まれている。

【参考文献】

Grice, H.P. (1968) *Studies in the Way of Words*. Harvard University

Press

Leech, G.N. (1983) *Principles of Pragmatics*. London: Longman.

林 宅男 (2008) 『談話分析のアプローチ』 研究社